

【令和５年度】デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）

事業名：四万十川の保全と資源活用による地域活性化プロジェクト

個別事業

- ①四万十町産アユ活用事業
- ②地産地消外商推進事業
- ③四万十川PRツール作成・利用事業
- ④受入態勢整備促進事業
- ⑤水産資源回復事業
- ⑥環境対策事業
- ⑦景観保全事業
- ⑧川ガキ育成事業
- ⑨高知大学連携事業

■四万十町総合振興計画審議会からの意見

- 四万十町で設定されている目指すべき将来像がどのようなものを明確に定義したうえで、各種取り組みが行われるものであると考える。本交付対象事業の効果検証資料を拝見する限りでは、目標は四万十川の持つイメージを向上させることで、一次産業及び観光産業の活性化を目指すことであると理解した。その場合、四万十町の強みである「四万十川」を活用した地域ブランディングの向上がどの程度達成できたかの成果（アウトカム）を確認していくべきではないかと思う。
- 本効果検証では、若年層の地域への愛着や誇りを深め、四万十町の未来を担う人材の育成に努める、とあり、町内からの若年層の人口流出と定着化を課題されている。この点本交付事業では、高知大学との連携の取組みや広報プロモーション活動が行われているが、観光・交流人口の増加だけでなく、若者層の四万十町への関わり度合いは深まっているのか、関係人口化への効果はあったのか気になった。観光客やイベント交流人口を増やすことは経済活性化、雇用創出にとって重要だと思うが、もっと若者をターゲットとした四万十町との関わりを深化させるためのアプローチ、プロモーションを打つことも重要ではないか。それが地域ブランディングを確立させることにも繋がると思う。

【令和５年度】デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）

事業名：三島キャンプ場リニューアル整備事業

■四万十町総合振興計画審議会からの意見

- 三島キャンプ場の整備が進み、訪問客が増加することは一定の効果があったことは正に評価できるものと考えられる。一方、当該キャンプ場整備を起点とした地域への経済波及効果がどの程度あるのかを検証することが拠点整備の効果と言うべきではないかと思う。多くの事例では、訪問客が増加するものの当該地では消費が進まず、アウトドア拠点の経済効果が限定的である、と指摘されることがある。今後、三島キャンプ場の整備が進み、四万十町にどの程度滞留し消費を行っているのか検証の余地があると思う。